

本を選ぶ

高校図書館版

NO.38 2004年(平成16年)11月10日

●発行/ライブラリー・アド・サービス
本社 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 5-20-5-504 TEL=03-3235-6168

ぶつく・えんど

図書館という場所

スウェーデンの夏は相変わらず透明感に包まれていた。青い空が本当に青い。太陽のひかりのあたり方が違うのだろうか。湿度がかかわってものだろうか。抜けるように青い。

その土地の気候は人々の感じ方や考え方、そして時にひとりひとりの思いまでを支えている。そして文化を大きく左右する。

ストックホルムの市立中央図書館をもう一度くぐってみたいと思うようになったのは、大英博物館のグレート・コートを経験して以来のことだ。図書館という場所が気になって仕方がないのだ。

二千年紀の頃にロンドンの大英博物館がリニューアルして、方形の建物に囲まれた中庭がグレート・コートとして再登場した。中庭中央に位置している円形の大閲覧室のドームを中心に巨大なガラス屋根が掛け渡されて、大英図書館大閲覧室は甦った。見事な仕掛けがまたしても設えられたのである。

ももとの円形の大閲覧室が登場したのは1857年のことである。立て役者パニッツィを陣頭に計画されたプランは、書庫と閲覧室とを分離した大建築であった。直径42メートルの正円の周囲にはびっしり書架が配され、その上の壁面にうがたれた天窓からは364席を擁する閲覧

室に外光をもたらす仕掛けになっている。窓より上はやがてドームとなって高さ32メートルに及ぶ。シドニー・マークスの設計によるこの巨大円形閲覧室は、後の図書館建築に大きな影響を与えることになる。

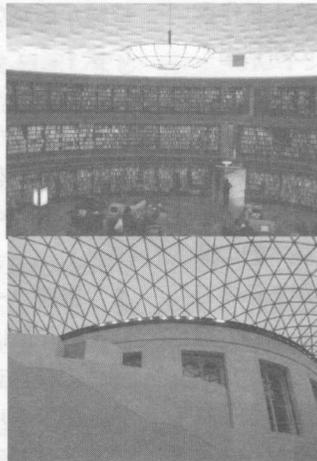
時代が進み、スウェーデンの首都ストックホルムの中央図書館は、やはり円形の壁面にあしらわれた壁面書架がその上の天窓とともにぐるり一周するプランとなって登場するが、中央部はもはや

閲覧室ではなく、貸出スペースとなっている。また天井部を当初ドームで構想していた建築家を実施プランでは結局円柱形を採用したのは、建築史で知られているエピソードのようだ。建築家の名はグンナー・アスプルンド。この北欧の名建築は75年を経た現も市民の大切な場を提供し続けている。

この30年ほど日本では図書館は建物ではなく働きた、と叫ばれてきた。確かに建物や本の山だけ

あっても図書館としての機能は果たせない。有能な図書館員たちに支えられた図書館サービスの恩恵は誰もが授かりたい。しかしその働きの恩恵だけでなく、場としての魅力は長く人の気持ちの中に残る。

不特定多数の市民が利用する公立の図書館とはやや違って、特定少数の利用者が一定期間だけ通り過ぎていく学校図書館はなおのこと、場としての役割は大きい。若い一時期をそこで過ごし、そこで流れた時間を、かれらは場所を抜きにして語らない。(埜村 太郎)



『選書ツール集 2004』をつくって

松井 正英

1 はじめに——選書雑感

みなさんは、選書をするときにどんなツールを使っていますか？

私の場合、まず新刊書を選ぶときによく使うのは、『ダ・ヴィンチ』とTRCの『いながら本屋さん』です。ただ、とくに『ダ・ヴィンチ』はそうですが、商業主義的な匂いを感じる時もあり、その点を考慮に入れながら眺めてはいます。

『活字倶楽部』も重宝しています。季刊なので新刊のチェックというわけにはいきませんが、もともと私が持ち合わせていないセンスがあります。ティーンエイジャーの興味関心や最近話題の情報を確認するのにも役立ちます。

文庫の新刊は、「文庫新刊案内」を使っています。事前に発注すれば、発行とほぼ同時に納品してもらえるので、ありがたいです。インターネットの各出版社サイトもときどきチェックします。それでもやはり、シリーズものの続刊や人気作家の新刊を落としていて、生徒に「〇〇の新刊出るよ」と指摘されることもあります。

私の選書の一部を紹介しましたが、日々、本を選ぶという作業をしているみなさんも、それぞれにノウハウがあることと思います。ただ、本の紹介を眺めているのは、本好きにとって基本的には楽しいことですが、時間的、予算的制約がある中では、なかなかしんどいところもありますよね。自分のためなら、当然何に興味を持っているかわかりますし、そのための情報収集の範囲も限られてきます。しかし、図書館の選書となると、あらゆる分野を対象にしなければなりません。大量の出版物があふれる中、どのように出版情報を収集したらいいのかというのが、まず最初の悩みではないでしょうか。

次にはやはり、何を選ぶかが問題になるでしょう。本を選ぶということは、単にその一冊を選ぶことにとどまらず、どのような図書館をめざし、どのような蔵書を構成し、そしてサービスを展開するか、という基本的な考えにしっかりと支えられた営みであるべきだと思います。だからこそ、それを満たす選書ができていないか、落としている

資料はないか、蔵書が不十分な分野への目配りができているかと、悩みというか苦しみというかはつきません。

もちろん、楽しいこともたくさんあります。本を選んでいるときには、さまざまな利用者や授業や状況が思い浮かびます。これならあの人たちが読む、これはこういう場面で使える、これはあの人に心がある人たちが新たに興味を持ってもらえるかもしれない、今このことが注目されているから興味のある人がいるだろう、と。それだけに、閲覧室に出した本が借りられたり、あるいは、本を手にした生徒がうれしそうにしていたりするときは、こちらもうれしいものです。

選書という行為には、利用者と本との間にあって何か格闘的なものがあるように、私は感じています。理論的なことは当然大切ですが、それだけでは実際には立ち行きません。日々の積み重ね、経験からでないとならぬと備わってこないものもあると思います。

ともかく、ほかの人はどうやって選書をしているんだろうか、何を使って選書をしているんだろうか、それを交流しようというところから、選書ツール集づくりがはじまりました。

2 選書ツール集の編集作業

この作業は、学校図書館問題研究会という研究団体の長野支部で進めました。

このツール集の最初の版ができたのは1996年です。支部の学習会で選書ツールについて話し合おうということになって、会員にアンケートをとり、その結果をもとに一覧表にまとめました。このときは、第1版といっても、あくまでも話し合いのための資料で、それを支部外に出す予定はまったくありませんでした。

その後2002年に、ツール集のことがまた話題にのぼりました。6年も経てば、廃刊などで手に入らないものや、逆に新しく発行されたものがありましたし、新たにインターネットやCD-ROMというツールも出ていました。それなら、それらの情報を加えて、さらに内容を充実させよう、そ

して全国大会で売ってひと儲けしよう!?! という
ことになったのです。

毎月の学習会で、「新刊情報」「インターネット」「新聞や雑誌の書評」など、ツールの種類ごとに少しずつ検討していく予定を立てました。実際に各自でツールを持ち寄り、掲載されている図書や、その情報の質と量、ツールの使い勝手など、いろいろな角度から検討を加えて、それをまとめていきました。さらに、その夏の全国大会で選書関連の分科会に参加する方にも、アンケートで「選書するときによく使うツール、オススメのツールと、その理由」を応えていただき、ところどころにコラムとして盛り込みました。

そして今年、さらに第3版を編集しました。改訂のおもな動機としては、めまぐるしく変化するインターネット情報の更新と追加をおこなうことにありました。とにかく、インターネットに詳しい司書何人かにサイトについてアンケートをとりました。編集担当は、そのサイトを実際に見たり、前の版に載っていたサイト情報の確認をしたりと、内容の追加訂正をおこなっていきました。もちろん、活字のツールの書誌情報も確認しました。さらに今回は、雑誌を選書するためのツールも追加しました。

3 選書ツール集の内容紹介

さて、冒頭では新刊書を選ぶ場合の一例を掲げましたが、ほかにも選書をするときにはさまざまな場面があります。とにかく全般的に探す場合、特定の分野の本を探す場合、特定の内容の本（泣ける本、元気が出る本、恋愛もの、など）を探す場合、リクエストされた本を調べる場合、等々。ツール集の編集方法として、一つには、こうした目的別の分類も考えられました。しかし、一つのツールがいろいろな目的に使えるため、あちらこちらで重複して、分類することが困難でした。

そこで、一部目的別の観点を入れながら、基本的にはツールの形態別に分類してまとめました。項目には、「新刊情報誌・書評誌」「雑誌の書評」「新聞の書評」「学校・図書館用選定目録」「図書目録」「出版社のPR誌」「一般書籍」「ホームページ」などがあり、活字のツール約120点、インターネットのサイト約30件を紹介

しています。

たとえば、『活字倶楽部』の記述はこのようになっています。「読者の声を敏感に反映した小説ファン雑誌。巻頭の特集では、話題の作家や注目の作品をとりあげ、懇切丁寧な解説を加えて紹介。また、「BOOK REVIEW」では、過去3ヶ月くらいの間に出た本が、(中略)六つのジャンル別に150冊ほど紹介されている。ティーンズの現実に近い内容。」

今回見つけたおもしろいサイトの一つに「新書マップ」(<http://shinshomap.info/>)があります。キーワードを入力すると、それに関連するキーワードとテーマがいくつか表示されます。さらに関連テーマをクリックすると、それに関する新書の一覧が背の写真付きで表示されます。詳細画面はWebcat Plusのページです。関連テーマを組み合わせた連想検索もでき、検索の幅が広がっていきます。クルクルと回るアニメーションは、時間的余裕があるときは楽しめます。

4 今後のことなど

特にインターネットの世界は変化が激しいので、定期的な更新が必要だと感じています。個人的には、今度はホームページの形で提供できればいいなと思っています。改訂はとにかく労力を必要とする作業ですが、それでも、支部で「よし改訂しよう!」となると、重い腰も上がります。

学校図書館職員は、職場で一人で働いている場合が多いので、どうしても「私」がしなければという思いにとらわれて、一人で仕事を抱えがちになります。仲間と定期的に研修する場、日常業務の問題点を話し合いながら解決していく場を持つことで、自分たちの力をつけるだけでなく、ともに仕事をしているという感覚、環境をつくることができるように思います。

この選書ツール集が、日々の活動や研修など、さまざまな場面で何かのお役に立つことができれば、こんなにうれしいことはありません。

(まつい まさひで：長野県立岡谷南高校司書)

『選書ツール集 2004』(PDF版/¥200/学校図書館問題研究会長野支部) についての問合せは fzj02603@yahoo.co.jp 松井まで

子育てと仕事 —研修も子連れで—

木下 通子

子育てを楽しむ余裕も

秋も深まり、行事の多い2学期をお過ごしのことと思います。みなさん、お元気ですか？うちの学校は2学期制を取っているので、10月1日が新学期。でも、長年身体に染みついた「夏休みが終わったら新学期」という感覚が抜けなくて、なんか変な感じです。

そうそう、夏休みといえば、私は夏を満喫しました。6年ぶりに妊娠・出産・0歳児付きじゃない夏だったので、海にプールに出かけてウォータースライダーにはまりました。すっかり忘れていましたが、私は絶叫マシン好きだったんです！プールがこんなに楽しいなんて！夏が終わらなければいいなあと、子どもと一緒に願っていました。

さて、長い夏休み。遊んでばかりいたわけではありません。久しぶりに学校図書館問題研究会の全国大会に参加してきました。今年の開催地は大阪でした。全日程通して参加するのは、4年ぶり。1歳半のチビを連れての子連れ参加だったので、じっくりしっかりとというわけにはいきませんが、報告集を読むだけとその場に行って臨場感を味わえるのはかなり違います。

まず驚いたのが、視覚にうったえる報告が多くなっていたこと。パワーポイントを使ったプレゼンテーションは、今や当たり前ですね。それから、総合学習と学校図書館との連携が密接になっていること。今まで「授業との連携」と言えば、司書が積極的に働きかけて、図書館を使ってもらおうという連携が多かったような気がしますが、必要に迫られて学校側から図書館に要求が出てきてもいるようです。

仕事では運命の出会いが

総合学習といえば、運命の出会いがありました。数学のS先生（女性）との出会いです。学校で私と一二を争うおしゃべり好きと噂されているS先生が、今年、図書視聴覚部の主任になり、図書館にちょこちょこ顔を出してくれるようになり

ました。S先生と私は早口でもあるので、短時間でもかなり密度（口数）の濃いおしゃべりができます。最初は、あたりさわりのないおしゃべりを楽しんでいたのですが、だんだんS先生が「数学の楽しさ」「授業を教えることの楽しさ」について熱弁をふるってくれるようになりました。

こんなに自分の担当教科を愛している先生と出会ったのは初めてで、かつ、嫌なことがあっても、数学を教えるとその疲れがふっとんでしまうと聞いて、また、びっくり！S先生とどこかで連携できたら…とチャンスを狙っていたのです。

S先生は数学だけでなく、「情報」の授業も持っています。S先生が数学について語る時、私も学校図書館について熱弁をふるっていたら、1年生の「情報」の授業と連携しない？と声をかけてくれました。

必要とする正確な情報を引き出す目と技

うちの学校では1年生と2年生で「情報」の授業を履修するのですが、1年生の情報の授業で図書館を使ってもらえることになりました。私は、「情報」というとワープロや表計算などのソフトの使い方など、How toを教わる授業というイメージを持っていたのですが、S先生に情報の授業は、世の中に氾濫している数々の情報の中から、本当に自分の必要とする正確な情報を引き出す目と技術を養うのが目的ということを知って、図書館の仕事と相通じるものがあるぞと思いました。

昨年の1年生の授業では、自分の住む市町村についてインターネットのHPなどを使って情報を集め、パソコンでグラフなどを作って、最後にはパワーポイントを使って自分の町をPRするプレゼンテーションを行うという授業展開をしていました。ところが、HPが利用できない町もあり、今年は別の方法で調べ学習をさせたいと思っていたそうなのです。

たまたま、S先生とおしゃべりに興じていた時に、webでの情報収集と百科事典や現代用語の基礎知識などの参考図書のメリット・デメリットなど

について考えていたところだったので、その話をぶつけてみました。すると、S先生は、情報の授業は自分が得た情報を取捨選択して、自分の中で咀嚼するところに力をおきたい、ネットの情報は必ずしも正確なものばかりじゃないんだというのも伝えたいと言ってきて意気投合。9月から1年生10クラスとの連携が始まりました。

先生が設定したテーマは、「介護犬」「劣化ウラン」「森林破壊」など、総合学習の基本である「福祉・健康」「国際理解」「環境」などにそったもの。この授業では、たとえば「森林破壊」を取り上げたら、森林がどうして破壊されたのかというしくみを調べるのが目的ではなく、しくみを

知った上でどうしたら森林破壊が防げるのかについて、自分たちの提案をするのが目的です。

この授業の中で、図書館としては、百科事典の引き方をはじめとする参考図書の使い方を説明したり、新聞記事の読み方を説明させてもらったりします。これは現在展開中の授業なので、どうなったか、また、報告しますね。

ところでこの夏、司書のコミュニケーション能力が話題になっていました。今までの司書のイメージは「本好きなおとなしい人」ですが、この情報化社会、それでは通用しません。司書の専門性って何だろうって改めて考えさせられました。
(きのした みちこ：埼玉県立春日部東校司書)

『国際交流』リニューアル第1号

季刊『国際交流』は
誌名を『遠近』に変更し
隔月刊(毎月1日発行)として
生まれ変わりました

遠近

wochi kochi 誕生
定価 525円(税込)

10・11月号特集
文化の力 交流の営み
文化の力を考える

——青木 保×江戸京子×小倉和夫
戦争を超えた異文化の結びつき
オリンピックと文化オリンピック
中国のパブリック・ディプロマシーと対外文化交流
サウジアラビアはいまドアを開く
「いごちの悪い共存時代」の文化交流

(主な常備店) 八重洲ブックセンター本店/ジュンク堂池袋本店/丸善丸の内店/三省堂書店神田本店/岩波ブックセンター/紀伊國屋書店新宿本店/紀伊國屋書店新宿南店/ブックファースト渋谷店/東京堂書店神田本店/有隣堂本店/ほか全国主要書店

〈発売〉山川出版社 〒101-0047 東京都千代田区神田1丁目13-13 TEL:03-3293-8131(代)
〈発行〉国際交流基金(ジャパンファウンデーション) TEL:03-5562-3538

レイチェル・カーソンの世界へ かもがわCブックス②

上遠恵子著 四六判・196頁 定価1575円

子どもたちに不思議と感動を—これ一冊で、レイチェル・カーソンの生涯、著作、役割が分かる。研究の第一人者が思いを込めて綴る。

イギリスBBCワイルドライフ写真賞受賞

KARAHARI

チーターがいる砂漠

カラハリ(南部アフリカ)に棲息する野生動物の生態

A4判・並製・カラー128頁 定価2730円

[写真・文]佐野高太郎 [英文対訳]佐野彰則

かもがわ出版 〒602-8119 京都市上京区堀川通出水西入
TEL075(432)2868 FAX 075(432)2869
http://www.kamogawa.co.jp

ぼくがイラクへ行った理由
今井紀明 1300円
「人質」より辛かったバッシング。劣化ウラン弾問題など行動する18歳が経験した日本社会のおかしさと同世代へのメッセージ

感じる食育 楽しい食育
サカイ優佳子・田平恵美 1400円
子どももおとなも五感を駆使しよう。味比べ、香りあて、手触クイズ、教科との連動…家庭でも学校でもできる実践的プログラム

食べ物と農業はおカネだけでは測れない
中島紀一 1700円
相次ぐ食と農の危機を国の企業化・大規模化路線とは異なる、いのちを守る地産地消の生活型農業によって解決する道を明示

徹底解剖100円ショップ
日常化するグローバルゼーション
アジア太平洋資料センター編 1600円

東京都新宿区下落合
1-5-10-102【税別】 **コモンズ** TEL:03-5386-6972
www.commonsonline.co.jp

わからないことは物理の宝だ!

いまの高校物理に不満な人、
物理をABCから学びたい人
に贈る待望の書。

江沢 洋/著

物理は 1. 力学
B5判 3045円

自由だ 2. 静電磁場の物理
B5判 2940円

日本評論社 http://www.nippyo.co.jp/ (価格は税込)
東京都豊島区南大塚3-12-4 ☎03-3987-8621

地球にやさしい ひとになる本



ブレ、トルジュマン、サン=マルク
車が空気を汚しつづけたら、
どうなるの？ 電池を浜辺に
捨てたらどうなるの？ 自然
界のしくみから公害、ゴミ問
題、リサイクルまで、わかり
やすく解説。たのしく学べる
エコロジー絵本。永田千奈訳。

◆四六判/52頁/1470円(税込)

晶文社

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-12
電話 03(3255) 4501
http://www.shobunsha.co.jp/

◆◆◆◆◆ 図書館レファレンスに!! ◆◆◆◆◆
マクミラン版

世界女性人名大辞典

ジュニア・アグロウ編/竹村和子監訳
B5判・上製函入・700頁・予価28000円

政治・経済・宗教・文学・芸術をはじめ、あらゆる分野で活
躍した古今東西の女性約2000人を網羅し、多彩なエピソード
を交えて紹介する画期的大辞典。

- ◆欧米でロングセラーの決定版辞典
『マクミラン版・世界女性人名大辞典』の日本語版。
- ◆経歴・業績・学歴をはじめ、詳細な伝記を収めた「読む辞典」。
- ◆掲載項目は、見出人名、原綴、生没年、本文、参考文献など。
- ◆本名のほか、旧姓・別名・通称・筆名等もすべて示す。
- ◆巻末に原綴(欧文)索引および分野別索引を付す。
- ◆肖像写真約200枚を掲載。

ISBN4-336-04396-5

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
TEL.03-5970-7421 FAX.03-5970-7427

限りなく広がる知識の世界 辞典700点突破!

全国紙社説総覧

大学入試の「小論文」対策には
最適な参考資料! 12月より刊行開始

朝日・毎日・読売・日経・産経・の全国紙5紙の
社説を3ヶ月ごとに分け、時系列的に配列して全
収録。各紙の論点を比較検討することにより多角
的にとらえ、主張が読みとれ、的確な情報を整理
・把握できる。テーマ見出しの索引により同一
テーマの社説をまとめて読める利点がある。12月
より2004年1月~3月、4月~6月の2冊を同時発売。

B5判 各600頁 定価12600円(税込)

東京堂出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-17
☎03(3233) 3741 パンフレット連星

幕末維新の個性

全10巻

個性あふれる群像とその時代に迫る、新シリーズ

◆第1回配本(発売中) 四六判

徳川慶喜

家近良樹著 二七三〇円



〔最後の将軍〕から朝敵へ。その謎多き栄光と悲劇の前
半生がついに明らかになる! 最新かつ正確な本格評伝。
〔続刊〕②横井小楠と松平春嶽・高木玄蕃 ③大久
保利通・空原英彦著④西郷隆盛と土族・落合弘樹著⑤井伊直弼
・母利美和著⑥高杉晋作と奇兵隊・青山忠正著⑦岩倉具視・佐
々木 克著⑧木戸孝允・松尾正人著⑨坂本龍馬と土佐の群像・佐
羽賀祥一著⑩橋本左内・三谷 博著 ※四カ月に1冊ずつ刊行

価格 東京都文京区本郷七-1-118
電話 03-3138-1319 1-151-1
吉川弘文館

水の事典

太田猛彦ほか6名編

定価21000円

危険物の事典

田村昌二総編集

定価18900円

からだの百科事典

坂井建雄ほか2名編

定価21000円

新版家政学事典

㈱日本家政学会編

定価31500円

世界の古代文明

図説世界文化地理大百科別巻

定価29400円

’05事典・辞典目録です。ご活用下さい。

朝倉書店

東京都新宿区新小川町6-29
〒162-8707 ☎03-3260-7631

◆森村誠一氏推薦「よい本」とはまさにこのような本
すべての子を幸せにするために人生を捧げた。誰
にでもできることではないが、誰かがしなければ
ならないことを、著者は身をもって示した。

障害者雇用のパイオニア・
渡辺トク伝 桐生清次●洗濯屋女社長・
94年の道のり 一八九〇円

あの薔薇を見てよ
ボウエン・ミステリー短編集

太田良子訳 英国文壇きつての「短編の名手」が
ミステリータッチで綴る人生の真実。二六二五円

ちから教授のコトバ学
加藤主税●現代ニホンゴ学 痛快エッセイ。二〇〇〇円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町1
TEL075-581-0296 ※価格税込